

2016
第4号

平成28・12・11発行

奉賛会会報

新川神社新庄御鎮座四百年記念事業奉賛会

新川神社新庄御鎮座 四百年奉祝記念事業を終えて

奉賛会会長 貫江 和夫

拝啓、時下ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

皆様には、日頃から新川神社に対し格別のご崇敬とご高配を賜り、誠に有り難く、心からお礼申し上げます。

1616年新川神社が、五本榎より現在の地に鎮座されて400年という歴史的な節目を迎えることになり、2012年3月に奉賛会を立ち上げ「記念大祭」と「記念事業」を実施することを企画いたしました。

記念事業では、参集殿の建立、神輿蔵の修理・改築、石畳整備、境内地環境整備、駐車場整備、玉垣造営等を進めることで、氏子はじめ崇敬者の皆様にご協賛をお願いしてまいりました。2016年4月には、参集殿及び駐車場が完成し、お披露目することができました。皆様のご厚情により奉賛金の目標額は達成できましたが、経済情勢の悪化や自然災害の増加による物価の高騰のため予定していた事業の数々を、やむなく断念せざるを得ませんでしたことを慎んでご報告いたします。

10月9日には、奉祝行事「町新庄祭騒動」を行い、氏子はじめ崇敬者の皆様とともに御鎮座400年をお祝いしました。五本榎からの神輿渡御には250名を超える老若男女の参加があり、沿道の皆さんの祝福を受け行列する様はまるで大名行列のごとくでありました。また、午後から行われた『宮フェス～鎮守の森の音楽会』では、地域の皆さんの日頃の活動が披露され、有名生バンドが出演するなど多彩な内容に多くの人々が終演を惜しみながら宮を後にしました。

さて、奉賛会活動を通じての成果として、参集殿や環境整備もありますが、何より新庄新川神社「若鷹会」の発足があります。地元の若い衆が“楽しく活動できる・世代を超えた交流ができる場”として、これからの地域を担う若者が積極的に参加し、完成した参集殿(神道道場)で伝統文化が継承されることを心から願っております。

終わりにりましたが、奉賛会は3月末をもって5年間の活動を終えることとなります。

この間、氏子はじめ町内会及び役員の皆様には募金活動や各事業など多岐にわたりご協力をいただきました。

誠にありがとうございました。衷心より感謝申し上げますとともに皆様様の末永いご健康とご多幸をお祈り申し上げます結びとします。



新川神社新庄御鎮座四百年祭「町新庄祭騒動」を終えて

新庄若鷹会 頭 小川 博司

私は4年前より400年祭に向けて活動をしてきました。船木(禰宜)さんから「400年祭を開催し、その際に若者達で新川神社の神輿を直接担ぎ上げたい」という熱い思いを聞きました。その為にも若者を中心とした新川神社の若衆を結成しなければいけない。しかし、今のご時世に信仰心が薄く、地域コミュニティに関心のない若者たちをどうやって集められるだろうか。それから船木さんと一緒にお宮で飲もう会という飲み会を企画し、二か月に一度飲み会を開催しながらお宮さんを中心としたコミュニティの形成を開始しました。新庄の枠を超えて話題になっている寒中禊大会やお宮でのバーベキューなどを開催し毎回少しずつ参加者が増え、その後、新庄若鷹会と名前を変え若衆を結成いたしました。「俺たちの街のお宮の祭りを盛り上げよう！」と、そんな熱い仲間たちが沢山増えました。その中にも様々なジャンルで活躍する仲間も多く、結果的に400年祭町新庄祭騒動を運営するにあたり様々なノウハウを持つ人も多く、企画・運営などほとんど自分たちで行うことができました。そんな沢山汗をかいてくれた仲間たちに感謝いたします。そして、そんな仲間たちと神輿渡御を無事終えることができたことが嬉しく思います。

当日の本番を迎えるまでに何度も何度も数え切れないほど会議や打ち合わせを重ねました。仕事を終えてからの疲れている中夜遅くまで何時間も旧参集殿で議論したりしたこともいい思い出です。時には他の地域の神輿巡業の視察にも伺いました。伝統が伝わっていない新川神社の神輿振りなどの作法を少しでも意義のあるものにするために皆で話し合い考えました。それだけに本番では各町内の子供神輿も含め大いに盛り上がる渡御ができたと思います。新川神社の氏子全体で一つのことに取り組むことができたのは初めてと聞きます。きっと参加した子供たちにも忘れることのない思い出として記憶に刻まれたと思います。宮入の際の全体での神輿振りは盛大であり、今後新庄の未来に向けて大きな希望となったと思います。過去から未来に向けて繋がっていく素晴らしい神輿渡御であったと思います。



午後からの宮フェスにも沢山のご来場をいただき大いに盛り上がりました。様々なミュージシャンたちも奉納芸能ということでご参加いただき、体験コーナーでは様々なワークなどを体験できるということで順番待ちが続いていました。老若男女問わず飲んで食べて歌って大いに盛り上がる宮フェスとなりました。特にクライマックスのDOZAN11さんのライブは神社の境内であることを忘れるほどの盛り上がりでした。その間も進行サポート、警備、

誘導など沢山の方々のご尽力のもと無事に終えることができました。

今回の新川神社御鎮座400年祭「町新庄祭騒動」を通じて沢山のことを学ぶことができました。何でも自分たちで始められること。そしてやる気になれば自分たちで実行できること。この自分たちの街をもっともっと楽しく愛すべく地元にしていけること。また来年も楽しみにしていると云ってくださる方も多かったです。大きなイベントではなくてもお宮さんを通じた次の世代に繋いでいける大切なことを継続していければと思います。400年祭が終わっても新庄若鷹会を継続発展させていきたいと思っております。新川神社の氏子、そして新庄地区の更なる安泰と発展を願います。最後に総代会の皆様、奉賛会の皆様、強力なリーダーシップで最後まで努力された船木さん、関係された皆様、本当にお疲れ様でした。

四百年記念大祭までのあゆみ

事務長 今井 清隆

新川神社新庄御鎮座 400 年記念大祭は、去る 11 月 26 日に参集殿の落成祝賀会をもって終了しました。ここに至るまでの長い苦闘の道のりを「400 年記念大祭までのあゆみ」として簡潔にご報告いたします。

1. 神社の由来

新川神社は、戦国時代に志摩郷の八島野（現五本榎）に社殿があり、この地が新庄城からみると鬼門にあたることから新庄城の守護神でありました。新庄城廃城後、新川郡近郷の住民は農耕神・水神として信仰し、五穀豊穰・村内安全・厄除けを祈願しました。

1615（元和元）年（大阪夏の陣の頃）、常願寺川の洪水で社殿が浸水し神器が流されたので、翌年に現在地に遷宮されました。それ以来、新庄町はもちろん、近郊の人たちも神社のお祭りには必ず集まり賑わいました。

2. 400 年記念大祭

新川神社はことし鎮座 400 年の節目を迎えることから、記念事業として計画していた参集殿と駐車場を 4 月に完成しました。さらに、10 月 9 日には「町新庄祭騒動」と銘打って、遷宮を成し遂げた先人の苦労をしのび、地域の発展を神に祈るため「みこし巡行で遷宮再現」を行ないました。また、仕上げとして 11 月 26 日には、多くの関係者のご列席をいただき「新庄御鎮座 400 年記念大祭」を厳かに行ないました。その後、参集殿において記念祝賀会を行なって一連の行事が終了いたしました。

3. 大祭までのあゆみ

平成 23 年から 6 年間にわたる足どりを年毎に大枠でまとめました。また、皆様からの奉賛金 7,470 万円、その他 200 万円で全体額 7,670 万円の事業となりました。

年	月	主な内容	備考
H23	4	総代会で奉賛会の立上げを協議 (奉賛会準備の発議)	総代会（会長：田添茂信）は、神社の諸行事に協力協賛する会
〃	8	奉賛会準備会① (400 年記念大祭は H28 年)	記念事業：参集殿、駐車場、参道石畳、神輿蔵修理、玉垣 目標額 7,000 万円を設定
〃	11	奉賛会準備会②	会則、趣意書、御鎮座由緒、奉賛同意書、
H24	3	奉賛会設立総会 各役員を選任（会長：貫江和夫）	奉賛同意書、啓蒙活動、今後の行動予定 氏子、企業からの奉賛金額の検討
〃	12	神社運営費に資するため特別寄付	町新庄用水協議会より 1,000 万円寄付
H25	10	参集殿の計画プランを 3 社コンペ	建設場所 2 案（現在地と本殿東南の田圃）
〃	12	船木家私有地 2,551 m ² を神社へ提供	参集殿及び駐車場の建設予定地
H26	2	総務委員会立上げ（委員長：細川 茂）	会報の発行
〃	7	建設委員会立上げ（委員長：坂野忠雄）	参集殿の計画を専門的な立場で関与
〃	8	参集殿の設計・施工業者決定	(株)オリバー
〃	11	建設委員会で参集殿の審査	基本構想、外観、内部空間、外構など
〃	12	参集殿の設計委託及び工事請負契約	(株)オリバー、請負額 5,000 万円（税込み）
H27	1	奉賛金の中間報告（同意額 6,495 万円）	氏子 3,814、企業 1,169、宮司家 1,512
〃	2	奉賛金の二次募金を呼びかける	目標額より約 1,000 万円不足
〃	4	慶祝委員会立上げ（委員長：上坂健治）	町新庄祭騒動の計画立案
〃	7	外構工事（駐車場含む）請負契約	(株)オリバー、請負額 1,600 万円（税込み）
〃	9	参集殿の上棟式（9 月 28 日）	神道様式に従い厳かに挙行
H28	2	町新庄祭騒動の計画検討始まる	若鷹会（会長：小川博司）計画案を主導
〃	4	参集殿の竣工祭（4 月 10 日）	内覧会
〃	10	町新庄祭騒動（10 月 9 日）	神輿渡御・こども神輿等参加者約 260 名
〃	11	400 年記念大祭（11 月 26 日）	記念祝賀会（55 名参加）

新庄御鎮座四百年記念大祭斉行される

事務局 寺井 幸夫

去る11月26日午後、400年記念大祭がご来賓・氏子約60名参列の元厳かに執り行われました。祭典は鷹乃羽雅楽会の演奏を添え、参集殿建設や「町新庄祭騒動」などの記念事業に関する祝詞奏上があり、続いて奉賛会長祭詞に引き続き今回の奉賛事業にご協力いただいた約1,200名の氏子・崇敬者全員の御芳名簿が奥殿深く奉納されました。

大祭終了後会場を参集殿にて祝賀会を催し、奉賛事業に功績のあった新庄町用水協議会様、上井石庭様、株式会社オリバー様へ感謝状・記念品の贈呈がなされました。続いて来賓を代表して、富山第一銀行会長・金岡純二様よりご挨拶が有り、昭和10年代の新庄町の様子や新川神社が地域の中心であったことなど意義深いお言葉を頂戴致しま

した。

次に新川神社にご縁の深い新庄城主三輪飛驒守長職の末孫である日本画家（日展評議員・京都在住）三輪晃久様より奉納された絵画の除幕式を執り行いました。絵画の「三輪山旭日」は御祭神の大己貴命との御神縁によるものと説明がなされました。

鏡開きの後、四方神社の榎野宮司様のご発声により祝宴が開催され、しばし和やかな雰囲気の中で進められました。

本大祭をもって、5年前から進められてきた奉賛事業のすべてを無事に終了することが出来ました。ご協力いただいたすべての皆様方に対し、厚く御礼申し上げます。

『新川神社新庄御鎮座四百年事業』をふり返って

奉賛会副会長 細川 茂

新川神社が五本榎から現在地に移転して、400年という歴史的な年を迎えることから、『新川神社新庄御鎮座四百年記念事業』を企画し、平成24年3月に事業推進のための奉賛会を立ち上げました。そして、氏子総代会と奉賛会で記念事業として、氏子をはじめ近隣住民が参詣して心が和む処との願いから、多目的な空間としてのふれあい広場『参集殿』の建設を決定。早速、氏子を中心にした奉賛会の常任理事会で募金活動を始めました。当初の計画で募金額を「参集殿」の建設費を含む大祭費や広報費できれば駐車場整備費など総予算7,000万円を見込み、各氏子宅をはじめ近隣の企業や宮司縁故者、さらには新庄校下出身の方々にまで、広く募金をお願いしました。

しかし、当初日本経済が今一つ不況と物価高などが重なって、思うように募金が集まらず企画内容をいくらか縮小する破目に陥り苦慮しましたが、その後奉賛会役員の方々の積極的な募金努力と校下各町内会の崇敬者のご協力によって、「参集殿」の建物自体は少し縮小になりましたが、当初の計画の予算に到達することが出来ました。感謝、感激の喜びでした。そして、予定通りの大祭経費や広報費さらには駐車場整備費などの予算も捻出することができ、関係者一同安堵した次第です。

その後、計画通りに平成27年9月に『参集殿上棟祭』を、翌平成28年4月10日に『参集殿竣工祭』を行ない、氏子総代会と奉賛会役員によって完成を祝いました。

また、平成28年10月9日に、記念事業の集大成としての『町新庄祭騒動』再現みこし渡御祭を実施し、新川神社神輿を先頭に、関係町内の子供みこしが続き、町を練り歩きました。そして新川神社境内では、各種団体の協賛による踊りや音楽など多彩なイベントが催されて、成功裡に終了しました。因みに、皆様から奉賛金として載いた金額をご報告させていただきますと、総計で7,670万円となりました。この金額は、今後、新川神社への崇敬と氏子意識の高揚に繋がればと念じております。

最後に、奉賛金の絶大なご協力に、関係者一同心から感謝してお礼を申し上げます。

どうもありがとうございました。

